

平成26年7月28日(月)
愛知県県民生活部 文化芸術課
国際芸術祭推進室事業グループ
担当：小田、彦坂
電話：052-971-6127 (ダイヤルイン)
県庁内線 724-680、724-683

あいちトリエンナーレ2016の芸術監督が決定しました

このたび、あいちトリエンナーレ2016の芸術監督が、みなとちひろ港千尋氏(写真家・著述家／多摩美術大学教授)に決定しました。

8月2日(土)に、同氏が知事を表敬訪問するとともに、芸術監督就任会見を行い意気込みを語ります。

- ◎ 9:30 知事表敬訪問(愛知芸術文化センター12階アートスペースB)
- ◎ 11:00 芸術監督就任記者会見(愛知芸術文化センター地下2階大リハーサル室)

港千尋(みなとちひろ)氏

1960年9月25日 神奈川県生まれ(53才)

写真家・著述家

多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授(映像人類学)



◆略歴(詳細は別紙)

早稲田大学政治経済学部卒業。

2013年より国際交流基金国際展事業委員を務める。

群衆や記憶など文明論的テーマをもちつつ、研究、作品制作、展覧会、出版、キュレーション^{※1}等、幅広い活動を続けている。著作『記憶—創造と想起の力』(講談社/96年)でサントリー学芸賞、展覧会「市民の色」で伊奈信男賞を受賞。

2006年に釜山ビエンナーレ共同キュレーター^{※2}を、2012年に台北ビエンナーレ共同キュレーターを務める。2007年にはヴェネツィアビエンナーレ国際美術展日本館のコミッショナーも務めた。

※1 キュレーション：展覧会を企画すること

※2 キュレーター：展覧会の企画や構成などを司る者

◆芸術監督選任の経過等

あいちトリエンナーレ芸術監督選考委員会を設置し、同委員会の推薦を受けて、あいちトリエンナーレ実行委員会運営会議において芸術監督を選任した。

- 平成26年7月 1日 学識経験者6名からなる芸術監督選考委員会を設置。
- 同 7月22日 芸術監督選考委員会を開催。同委員会から実行委員会に対し、芸術監督の候補者として港千尋氏を推薦。
- 同 7月25日 実行委員会運営会議において、港千尋氏を芸術監督に選任することを決定。
- 同 8月 1日 港千尋氏が芸術監督に就任予定。

◆芸術監督選考委員（50音順）

- 五十嵐 太郎（東北大学大学院教授）
い がらし たろう
- 高階 秀爾（大原美術館館長）
たかしな しゅうじ
- 建畠 哲（京都市立芸術大学学長）
たてはた あきら
- 馬場 駿吉（名古屋ボストン美術館館長）※委員長
ば ば しゅんきち
- 松村 公嗣（愛知県立芸術大学学長）
まつむら こうじ
- 峯村 敏明（多摩美術大学名誉教授）
みねむら としあき

【港 千尋氏のコメント】

今般、内外に知られた代表的な国際芸術祭の芸術監督に選任されて、たいへん光栄に思うと同時に、すでに過去2回の大成功を収めている成果を前にして、非常に緊張する次第です。まずはあいちトリエンナーレのこれまでの蓄積を勉強させていただきながら、みなさんと一緒に愛知から世界へ向けて開かれた新しいプログラムを考えていきたいと思えます。

芸術祭の監督はこれが初めてですが、全力を尽くしますので、どうかよろしく願いいたします。

◆港千尋氏 略歴

- 1960年 神奈川県生まれ
- 1984年 早稲田大学政治経済学部卒業
- 1995年 多摩美術大学美術学部共通教育学科講師
- 1996年 多摩美術大学美術学部共通教育学科助教授
- 1999年 多摩美術大学美術学部情報デザイン学科助教授
- 2002年 オックスフォード大学ウォルフソンカレッジ客員研究員
- 2003年 多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授
- 2010年～ 多摩美術大学美術学部情報デザイン学科学科長

<国際展>

- 2006年 釜山ビエンナーレ共同キュレーター
- 2007年 ヴェネツィアビエンナーレ国際美術展日本館コミッショナー
- 2012年 台北ビエンナーレ共同キュレーター

<委員>

- 2005年～2009年 東京都写真美術館収集委員
- 2009年～ 東京都文化発信プロジェクトアートポイント計画アドバイザー
- 2013年～ 国際交流基金国際展事業委員

<主な著作>

- 2007年 「文字の母たち」(インスクリプト)
- 2010年 「書物の変」(せりか書房)
- 2011年 「掌の縄文」(羽鳥書店)
- 2012年 「芸術回帰論」(平凡社新書)
- 2012年 「ヴォイドへの旅」(青土社)

<受賞>

- 1996年 著作「記憶—創造と想起の力」(講談社) サントリー学芸賞
- 2005年 展覧会「市民の色」(ニコンサロン) で伊奈信男賞